

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2020年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	都市部中学生の主体的な健康食習慣の習得を目指した地域連携食育ネットワークの構築と評価
研究代表者	福村 智恵（大阪市立大学 生活科学研究科 准教授）
共同研究者	早見 直美（大阪市立大学 生活科学研究科 講師） 西川 章江（大阪教育大学 教育学研究科 准教授）
<p>研究成果</p> <p>本研究は、都市部に在住する中学生において、健康的な食習慣を主体的に習得させることを目標に、昨年度までに開発した食教育プログラムの発展及び地域への拡充を目指して実施した。本年度は研究開始前に新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発出されており、学校は一斉休校の後、緊急事態宣言解除後に再開したが、感染予防の観点から、調理を伴う食育活動は実施できないとの判断があったため、本年度は現状の中で実施可能な範囲で住吉区内4中学校から協力を得て、活動を展開した。具体的には、昨年度まで実施してきた長期休暇における生徒自身による朝食調理の課題実施を軸に、その前後における食育関連リーフレットの配布、保護者を対象とした情報提供の実施、生徒を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、昨年度と同様に、課題を通して、調理の難しさ、大変さを感じる一方で、調理の楽しさや普段食事を作ってくれる家族への感謝の気持ち等の感想も挙げられ、今後の朝食作りへの意欲も7割近くが今後も自分で作ってみたいとの回答が得られた。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、区内の子供たちの食生活はどのような影響を受けているかについてたずねたところ、約4割の者が家庭で調理した食事を摂取する機会が増えたと回答していた。一方で、朝食を毎日食べる者の割合は7割を超える程度に留まり、朝食を食べない理由として、「食べる時間がない」「食欲がない」が多くを占める一方で、「朝食が用意されていない」という回答も見られた。今後は新型コロナウイルス感染症の状況も鑑みながら、適切な食育活動のあり方を検討する予定である。</p>	